

令和3年度和歌山大学防災士養成講座の案内

災害科学・レジリエンス共創センター

和歌山県では南海トラフや中央構造線断層系の地震、さらに台風などによる自然災害が心配されています。そのような背景のもとに防災・減災に強い学生として、災害ボランティアをはじめ、地域や職場の防災リーダーとなるような人材が必要です。そのため正しく災害を知り、災害に備え、災害時に自助、共助によって地域で活躍できる人材として、和歌山大学では「防災士」を養成しています。

この講座を修了すると認定特定非営利活動法人（以下：NPO 法人）日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格を得ることができます。

昨年度まで和歌山大学では、学部生向けに一般教育科目や専門科目を利用して受験資格を得る養成講座プログラムを対面で実施していましたが、今年度の遠隔授業では防災士の受験要件を充足できないことになりました。そこで今年度は、学部生だけでなく院生や教職員でも受講できるように工夫して、密を避けながら対面の集中講座として以下の日程で開催することとなりました。

防災士制度は、平成14年度からNPO法人日本防災士機構によって創設されました。「防災士」とは、“自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことをNPO法人日本防災士機構が認証した人です。

講義日時：2022年3月7日（月）9:00～17:10 ・ 3月8日（火）9:00～17:00 （2日間）

資格試験：2022年3月8日（火）17:20～18:20

場 所：和歌山大学栄谷キャンパス内（和歌山市栄谷 930）

費 用：6,500円（テキスト代3,500円、受験料3,000円（税込））

募集定員：100名

募集〆切：1月31日（月）16:00まで（締切厳守）

以下の説明をよく読んで、受講希望される方は、Eメールにて申し込んでください。

1. 受講できる条件

- 1) 和歌山大学に在籍する学部生、院生、研究生、科目等履修生、学部開放科目受講生(サテイト)、教職員（客員教員、研究員を含む）
- 2) 2日間の全てのカリキュラムに対面で参加できる方
- 3) 事前レポート課題を提出できる方（詳細は下段に書いています）
- 4) 防災士テキスト代と資格取得試験受験料を申込時に支払える方

2. 受講から資格認証までの流れ

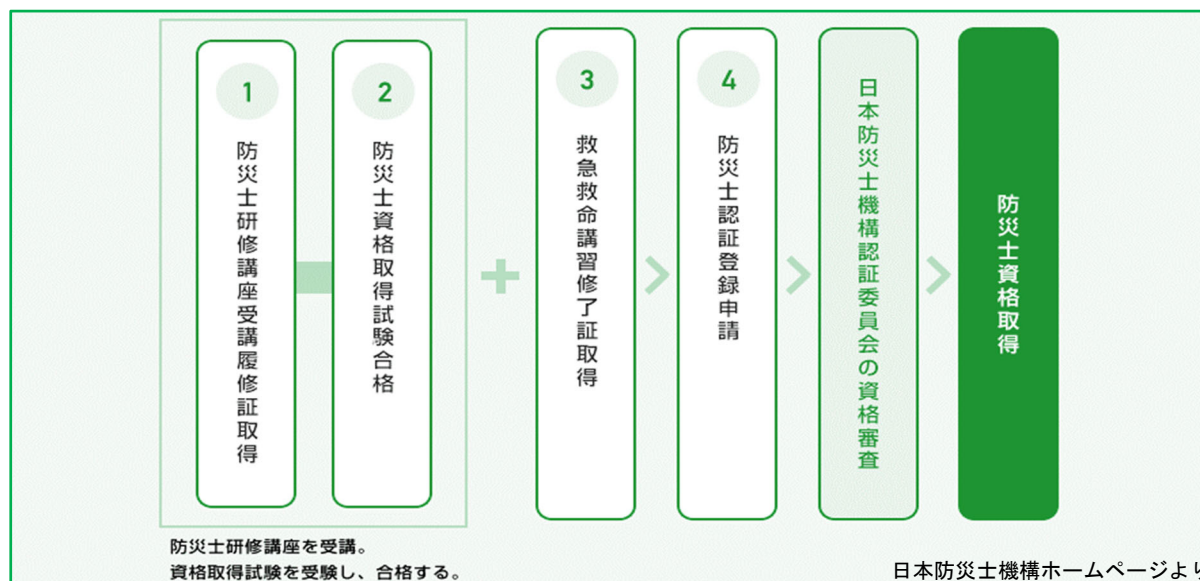


図1 防災士資格所得の流れ

STEP1 和歌山大学で防災士養成講座を受講する。(上図の 1)

○申し込み方法

こちらの申込フォーム (<https://forms.gle/AeXmg5mB8GHPJ2E9A>) から必要事項を送信してください。(※切：1月28日(金)16:00必着)
いただいた個人情報は防災士養成のために使用します。



折り返し振込口座をお知らせしますので、6,500円を前払いで振込んでください。振込み後、申し込み完了となります。

振り込みが確認できた方に、テキスト「防災士教本」をお渡しします(2月中旬予定)。

6,500円(テキスト代3,500円、資格取得試験受験料3,000円)

テキストは書店では市販されていません。資格取得試験はここから出題されます。

テキストは毎年更新されるので、最新テキストで学習する必要があります。

ご不明な点は、メール:bousaishi@ml.wakayama-u.ac.jp 防災士養成講座担当 にお問合せください。

○事前課題レポート

2日間の集中講座では実施しない講目は、事前にテキストを読んでレポートを提出していただきます。所定の書式(ワード形式)をメールで送ります(レポート課題はそれに詳細に書いています)。

提出は3月4日(金)16時までメールか、3月7日に紙媒体で提出ください。12講目あります。

各講目200字以内

○集中講座(3月7日、8日)

テキストの講目のうち、12講座を集中講座で実施します。それ以外の講目を事前レポートの課題にします。次ページのカリキュラム参照(都合で若干の変更の可能性はあります)

表1 防災士テキスト講目（21 講目及び補講 4）

<ul style="list-style-type: none"> ●第1章 災害発生のしくみ <ul style="list-style-type: none"> 第1講 地震・津波による災害 第2講 気象災害・風水害 第3講 土砂災害 第4講 火山災害 第5講 広域・大規模火災 補講1 近年の主な自然災害と新型コロナウイルス感染症 ●第2章 災害に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> 第6講 災害関連情報と予報・警報 第7講 被害想定・ハザードマップと避難 第8講 災害情報の活用と発信 ●第3章 公的機関や企業等の災害対策 <ul style="list-style-type: none"> 第9講 行政の災害対策と危機管理 第10講 行政の災害救助・応急対策 第11講 復旧・復興と被災者支援 第12講 災害医療とこころのケア 第13講 ライフライン・交通インフラの確保 第14講 企業・団体の事業継続 	<ul style="list-style-type: none"> ●第4章 自 助 <ul style="list-style-type: none"> 第15講 地震・津波への備え 第16講 風水害・土砂災害等への備え 補講2 耐震診断と補強 補講3 災害と損害保険 ●第5章 共 助 <ul style="list-style-type: none"> 第17講 自主防災活動と地区防災計画 第18講 避難所の設置と運営協力 第19講 地域防災と多様性への配慮 第20講 災害ボランティア活動 ●第6章 防災士制度 <ul style="list-style-type: none"> 第21講 防災士に期待される活動 補講4 防災士が行う各種訓練
--	--

表2 集中講座カリキュラム

	時限	時間	講義内容	講師	所属
1日目 (3月7日)		9:00	受付		
		9:15~9:30	オリエンテーション		
	1	9:30~10:30	地震・津波による災害	此松昌彦	和歌山大学
	2	10:40~11:40	近年の自然災害	此松昌彦	和歌山大学
			昼食		
	3	12:30~13:30	防災士に期待される活動	早稲田眞廣	日本防災士会和歌山県支部長
	4	13:40~14:40	気象災害・風水害	江種伸之	和歌山大学
	5	14:50~15:50	土砂災害	江種伸之	和歌山大学
6	16:00~17:00	災害情報の活用と発信	塚田晃司	和歌山大学	
		17:00~17:10	事務連絡		
2日目 (3月8日)		9:00	受付		
		9:15~9:30	オリエンテーション		
	1		防災士が行う各種訓練	此松昌彦・	和歌山大学
	2	9:30~11:40	避難所運営と設置協力（講義と演習）HUG	宮定 章	
			昼食		
	3	12:30~13:30	耐震診断と補強	平田隆行	和歌山大学
	4	13:40~14:40	自主防災活動と地区防災計画	宮定 章	和歌山大学
	5	14:50~15:50	行政の災害対策と危機管理	片家康裕	和歌山大学客員教員 (和歌山県危機管理局災害対策課)
6	16:00~17:00	災害ボランティア活動	南出 考	和歌山県社会福祉協議会	
		17:20~18:20	防災士資格取得試験		

STEP2 養成講座の終了に引き続き、大学内で資格取得試験（図1の 2）を実施します。

NPO 法人日本防災士機構の資格取得試験（3月8日（火）17:20～）

試験時間 50分。3択式 30問出題。80%（24問）以上の正答で合格。

不合格者や病気などで受験できなかった受講生は無料で再試験が可能。翌年度の試験か、近隣地域での防災士試験会場へ出向き受験。

合否結果は日本防災士機構から本人に通知が届きます。

STEP3 救急救命講習（図1の 3）は、認証登録(STEP4)までに修了すること。

過去5年以内かつ発行団体の有効期限以内の修了証を提示してください。（対象となる救急救命講習等は別紙一覧を参照）有効な救急救命講習修了証をお持ちでない場合は、皆さんの近くの消防署や日赤などでも受講可能です。別途、大学でも希望者に対して開催する予定です（日程：3月9日（水）予定）。

救急救命講習は以下のことを学びます

○応急手当の基礎知識

○心配蘇生法、AEDの操作方法、大出血時の止血法、疾病者管理法、けが・骨折の応急手当、運搬法など

STEP4 防災士認証登録申請（図1の 4）は、各自で個別におこなっていただきます。

防災士認証登録方法は大学を通じて案内しますが、手続きは各自で個別におこなっていただきます。

（認証登録料 5,000円を郵便局で振り込む）

NPO 法人日本防災士機構では所定の手続きで毎月ごとに認証しており、登録が完了すると、「防災士認証状（A4版賞状形式）」と「防災士証（カード形式）」が発行されます。

日本防災士機構より 防災士として個人情報の開示について

防災士は「自助」「共助」「協働」を基本原則として定めています。

従って、災害時はもとより平時においても防災関係行政機関及び日本防災士会と協働して活動することが極めて重要との方針から、日本防災士機構は自治体および消防等の公的機関、及び日本防災士会から要請がある場合に限定して、個人情報の目的外使用を行わないこと確認した上で、その管理義務を条件に、管轄内居住防災士の氏名・住所等を通知することとしています。

3. 認証登録されるまでに必要な費用

防災士教本テキスト代（3,500円）+試験料（3,000円）は所定の口座へ申し込み時に振り込んでいただきます。資格試験合格後、各個人の登録申請時（上記STEP4）に、別途、認証登録料（5,000円）が必要になります。

不明な点など問い合わせ先 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター 防災士養成講座担当

電話：073-457-7558 メール：bousaishi@ml.wakayama-u.ac.jp

学内場所：東3号館 南棟1階106室 紀伊半島価値共創基幹事務室

<https://www.wakayama-u.ac.jp/region/about/access.html>

参考ホームページ 日本防災士機構 <https://bousaisi.jp>

日本防災士機構が防災士認証要件として認めている主な救急救命講習等一覧

(心肺蘇生法やAEDを含む3時間以上。防災士認証登録申請時に、5年以内に発行されたものであり、発行団体が定めた有効期限内の修了証)

講習実施機関・所管等	講習・資格名	備考
消防本部	普通救命講習ⅠまたはⅡ	「市民救命士」等の名称による同講習も含まれる
	上級救命講習	
	応急手当普及員講習	
	消防吏員	
都道府県公安委員会	大型二種免許保持者応急救護処置講習	取得後5年以内限定（取得後5年を超過したものは対象外。この場合、免許の更新記録ではなく、他の救急救命講習修了証の写しの提出が必要）
	中型二種免許保持者応急救護処置講習	
	普通二種免許保持者応急救護処置講習	
厚生労働省	医師	医師の資格の証書等の写しの提出が必要（5年以内及び有効期限内基準の対象外）
	救急救命士	救急救命士の資格の証書等の写しの提出が必要（5年以内及び有効期限内基準の対象外）
	酸素欠乏危険作業主任者技能講習	
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	
国土交通省	小型船舶操縦士（一級～二級、特殊）	取得後5年以内限定。別途、特定操縦免許の「小型旅客安全講習」の受講が必要（取得後5年を超過したものと、及び前記安全講習の受講時期が判別不能なものは対象外。この場合、免許の更新記録ではなく、前記安全講習修了証、または他の救急救命講習修了証の写しの提出が必要）
日本赤十字社	救急法基礎講習	検定合格者に赤十字ベーシックライフサポーター認定証交付
	救急法救急員養成講習	検定合格者に認定証交付
	救急法指導員養成講習	指導員認定証交付
	水上安全法指導員養成講習	指導員認定証交付
	幼児安全法指導員養成講習	指導員認定証交付
	救急法短期講習（心肺蘇生、AEDを3時間以上含むもの）	カリキュラムの内容や時間数を確認する資料提出が必要
日本ACLS協会	ハートセイバー ファーストエイド CPR AED コース（G2015）	
	BLSプロバイダーコース（G2015）	
	ACLSプロバイダーコース（G2015）	
国際救命救急協会	CPR（心肺蘇生法）BASIC+AEDセミナー	
	AHA BLSプロバイダーコース	
MFA JAPAN	ベーシックプラス	
	ケアプラス【成人+小児又は乳児 / 全年齢対象（成人+小児+乳児）】	
	チャイルドケアプラス【全年齢対象（小児+乳児+成人）】	
	JPTECプロバイダーコース	
日本救急医学会/JPTEC協議会	JPTECインストラクターコース	
	ICLSコース	
	エマージェンシーファーストレスポンス（EFR）「一次ケア二次ケア」コース	
災害救援ボランティア推進委員会	セーフティリーダー＜災害救援ボランティア講座（基礎講座）＞	
大阪ライフサポート協会	AHA BLSコース	
	AHA ACLSコース	
	AHA BLSインストラクターコース	
	AHA ACLSインストラクターコース	
	指導者養成コース	
日本光電工業株式会社	心肺蘇生+AED講習会（基本180分修了証付コース）	
日本ファーストエイドソサエティ	実践！CPR&AED研修	
	MFAベーシックプラス	
	MFAケアプラス【成人+小児又は乳児 / 全年齢対象（成人+小児+乳児）】	
	MFAチャイルドケアプラス【全年齢対象（小児+乳児+成人）】	
	AHA BLSプロバイダーコース	
	AHA ACLSプロバイダーコース	
L.S.F.A. (Life Supporting First Aid)	Basic Skillsコース	「CPR&AED認定コース」を含む各コースが対象
	Safety Providerコース	
	Instructorコース	アシスタントインストラクター、インストラクター等の各指導者コースが対象
Wilderness Medical Associates Japan	WFA ベーシックレベル	
	WFA アドバンスレベル	
	WFR プロフェッショナルレベル	
	WALS 医師レベル	
	WEMT 救命士レベル	
日本体育施設協会 スポーツ救急手当	プロバイダーコース	
	インストラクターコース	
日本水泳連盟	基礎水泳指導員	
日本ライフセービング協会	BLS（CPR+AED）コース	BLS（CPR+AED）コースを含む各コースが対象
PADI	レスキューダイバー	